

# プロジェクト評価における公平性基準の必要性\*

A Study on the "Desirable Project Evaluation"  
which Introduced the Fairness or Equity Criteria

大谷健太郎  
Ohtani, Kentaro

## 1 要旨

本研究は、プロジェクト評価手法における効率性基準と公平性基準の扱い方を整理し、具体的な既存分析手法の問題を整理し、一つの望ましい評価方法を展望する。伝統的な費用便益分析の潜在的パレート基準をはじめ、効率性基準が依拠する理論を簡潔にまとめ、その仮定に関する問題点から公平性基準または衡平性基準の必要性を確認した。伝統的な費用便益分析の有効性を踏まえた上で、その理論的な限界を克服するための手法、例えば拡張・修正費用便益分析や多基準分析、QOL分析(QOLA)の理論を吟味することで次のような一つの視座を示した。費用便益分析によって効率性指標を算出する。その後、地域特性の数量化指標をもとに整合性を保ちつつ定性的分析を行うか、またはQOLAを用いる。そして、多基準分析の適用によって意思決定について数量化すること、といった総合的な分析を行い、相互に比較検討することが望ましいと考えられる。

## 2 キーワード

プロジェクト評価手法、費用便益分析、多基準分析、公平性

## 3 正誤表

ページ	箇所	誤	正
160	式(2)	0・1が見にくい	$UB_{tb} = \sum_{(i,j)} \frac{1}{2} \{ (Q_{ij})^0 + (Q_{ij})^1 \} \{ (C_{ij})^0 - (C_{ij})^1 \}$
161	式(3)	文字化け(Λ)	$W(u_1^b, u_2^b, \dots, u_l^b) - W(u_1^a, u_2^a, \dots, u_l^a) > 0$
165	式(6)	文字化け((Λ)	$Q(S_1, S_2, \dots, S_m)$
165	下から4行目	文字化け((Λ)	$S_1, S_2, \dots, S_m$

\* 『次世代 人文社会研究』創刊号、pp.151-171、2005。